

民生委員制度創設100周年記念 全国モニター調査報告書から
全国との比較による和歌山県内の状況

平成30年3月19日
社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会
総務・資金部 地域連携班

1 はじめに

平成29年に、民生委員制度創設100周年を迎え、全国民生委員児童委員連合会では、その記念事業の一環として、全国23万人余の民生委員・児童委員すべてを対象に全国モニター調査を実施(調査期間:平成29年7月1日～9月20日)しました。

調査内容と回答状況は次のとおりです。

○回答状況

	内容	全国	和歌山県
調査1	民生委員・児童委員による社会的孤立状態にある世帯への支援に関する調査	委員個人票 20万750人/23 万1,551人 (86.7%)	委員個人票 2,471人/2,699 人(91%)
調査2	民生委員・児童委員の活動及び意識に関する調査		
調査3	単位民児協の組織及び活動に関する調査	単位民協票 9,260人/1万 328人(89.7%)	単位民協票 110単位民協 /110単位民協 (100%)

○全国モニター調査結果が、平成29年11月に発表されたことから次の項目について、全国と和歌山県の状況を比較してみました。

(1) 当事者及びその世帯が抱える課題

- ① 当事者及びその世帯が抱える課題(該当するものすべて、複数回答)
- ② 当事者及びその世帯が抱える主要な課題(上位3項目)

(2) 住民からの認知と協力

- ① 活動を応援してくれる住民の有無

(3) 民生委員・児童委員の意識

- ① 委員活動における悩みや苦勞
- ② 委員活動のやりがいや喜び
- ③ 民生委員・児童委員となったことを「どう感じているか」
- ④ 円滑な委員活動のために希望すること

(4) 日常的に相談している相手

(5) 単位民児協による活動

(6) 関係機関との連携状況

- ① 連携(協働・協力)に伴う負担感

(7) 地域に不足していると感じるサービスや社会資源

2 今後の活動に向けて

(1) 地域のつながり、地域の力を高めるために

- ① 地域の社会資源(学校、自治会等)とつながった活動を推進する
例) 保健所等の関係機関と連携した子育てにかかる相談支援
社会福祉協議会と連携した高齢者向けの活動

(2) 様々な課題を抱えた人々を支えるために

- ① 身体障がいや精神障がい等がありつつ、複数の生活課題を抱える世帯への個別支援
- ② 刑余者(刑務所等からの出所者)を支援する委員のバックアップ
- ③ 個別支援を円滑にする社会福祉に関する知識や情報の提供
- ④ 「移動」への支援方策の検討

(3) 民生委員・児童委員制度を守り、発展させていくために

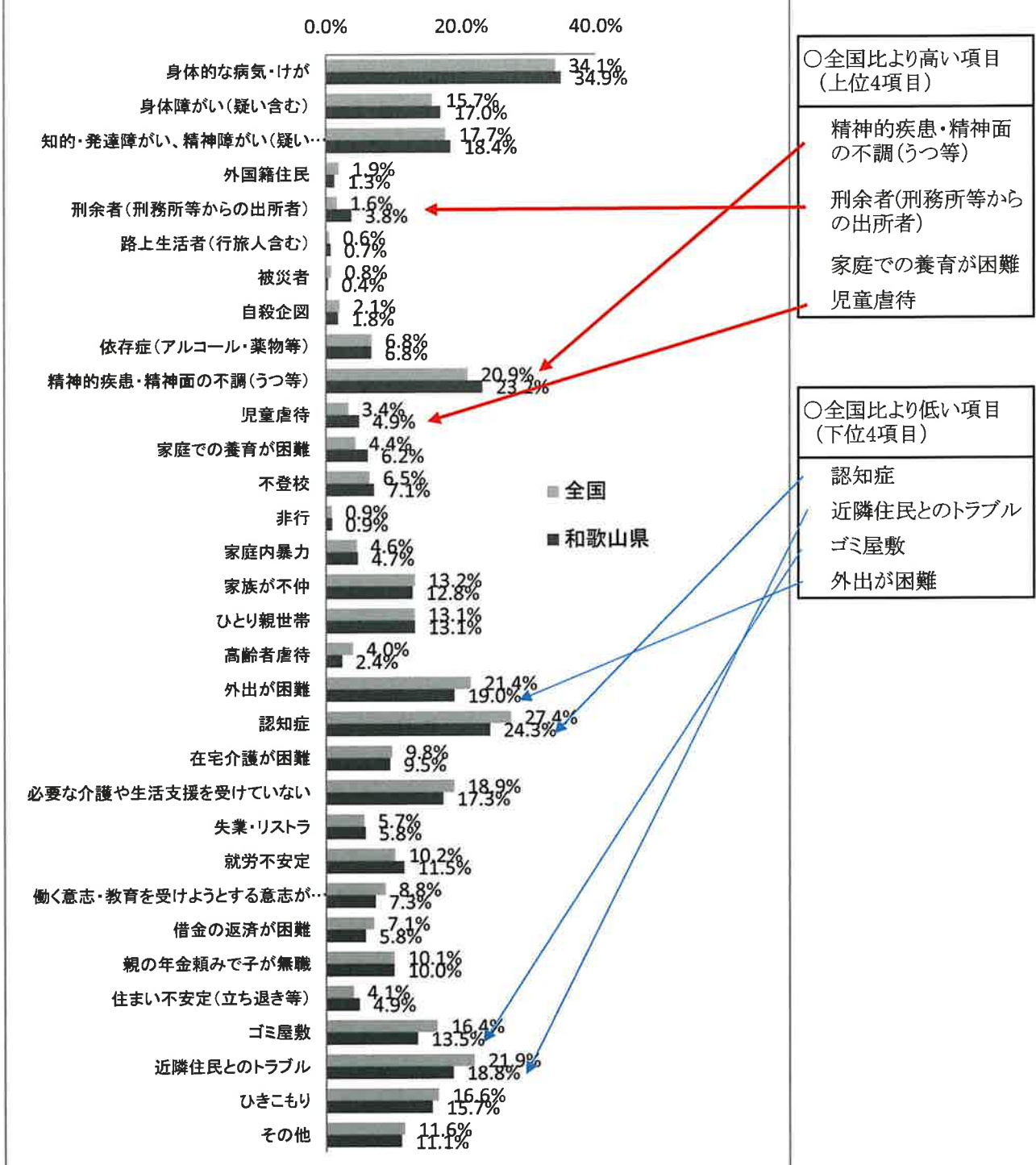
- ① 住民の日々の委員活動への理解、協力を得るための活動の推進
- ② 委員活動を充実させるための支援(委員の交流や、活動のバックアップ体制)

(1) 当事者およびその世帯が抱える課題

① 当事者及びその世帯が抱える課題(該当するもの全て、複数回答)

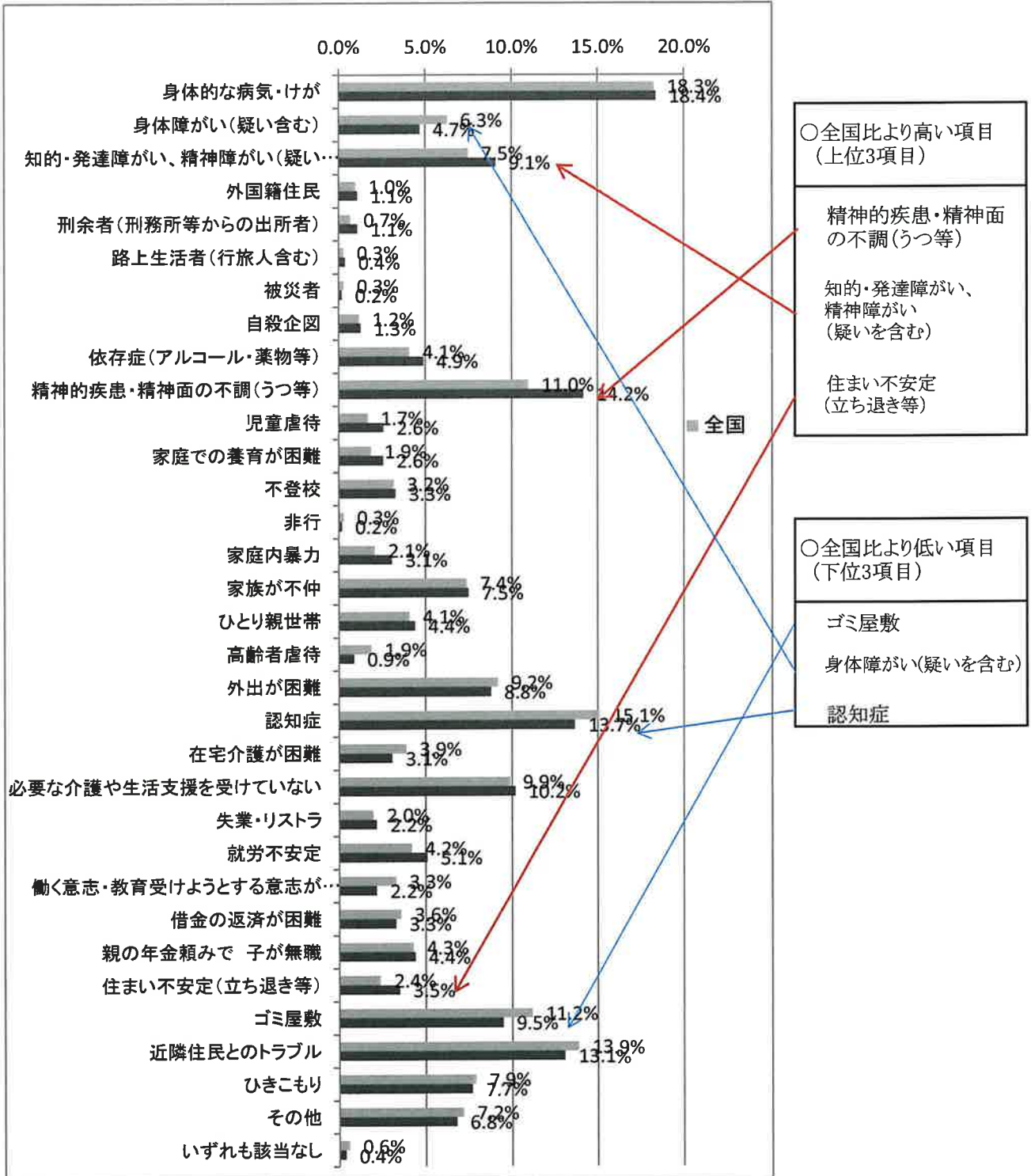
全国結果の分析(概況)	和歌山県の状況
<p>・ 社会的孤立状態にある世帯においては、複数の課題が複合するケースが少なくない。そこで、当事者およびその世帯が抱えている課題について、心身の状態を含め、想定される課題を選択肢として提示し、該当するものすべてを選択する形で回答を求めた(回答数の制約なし)。</p> <p>・ その結果、「身体的な病気・けが」が34.1%と最多で、次いで「認知症」、「近隣住民とのトラブル」であった。また、「引きこもり」やいわゆる「ゴミ屋敷」もそれぞれ9千世帯近くを数えた。</p>	<p>概況は、全国結果とほぼ同じ状況である。但し、「精神的疾患・精神面の不調(うつ等)」、「刑余者(刑務所等からの出所者)」、「家庭での養育が困難」、「児童虐待」の項目では、和歌山県のほうが比率が高い。これらの項目は、全体の中では多くない件数で、情報交換の場も少ないことが予想される。</p> <p>また、「刑余者(刑務所等からの出所者)」では全国比の倍以上であり、和歌山県の特長とも言える。担当している民生委員を積極的に支援することが必要と考える。</p>

図表1 当事者およびその世帯が抱える課題 (複数回答)



(1) 当事者およびその世帯が抱える課題
 ②当事者及びその世帯が抱える課題(上位3項目)

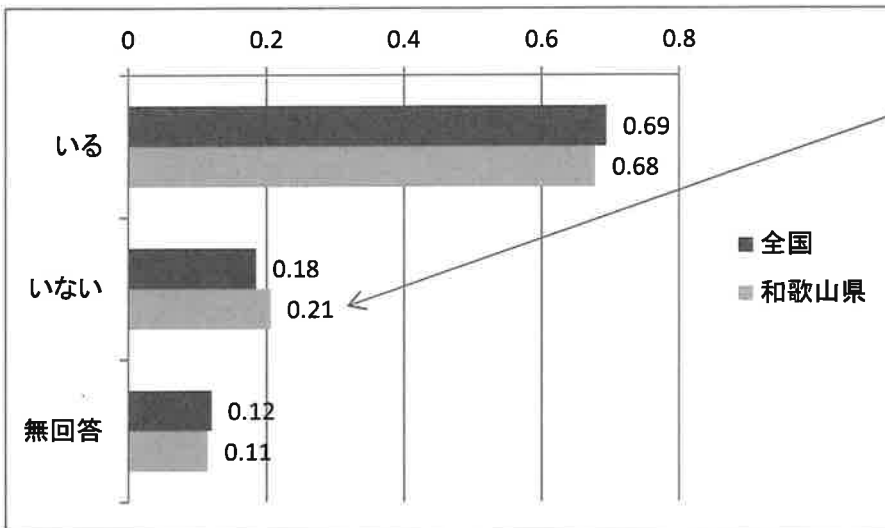
全国結果の分析(概況)	和歌山県の状況
<p>・当事者本人及びその世帯が抱える課題のうち、とくに主要な課題(緊急性、重要性が高いもの)3項目を尋ねた結果では、前項の結果と比較して、「身体的な病気・けが」が最多、次いで「認知症」であることは同じだが、以下、「近隣住民とのトラブル」、いわゆる「ゴミ屋敷」、「精神疾患・精神面の不調(うつ等)」と続いており、「近隣住民とのトラブル」やいわゆる「ゴミ屋敷」が主要な課題となっていることが明らかとなった。</p>	<p>概況は、全国結果とほぼ同じ状況である。但し、和歌山県内では、「精神疾患・精神面の不調(うつ等)」、「知的・発達障がい、精神障がい(疑い含む)」、「住まい不安定(立ち退き等)」のポイントが若干高くなっている。このことから、心身の障がいがありつつ複数の生活課題を抱えているケースがあると推測でき、個別に寄り添う支援が必要であると考える。</p>



(2) 住民からの認知と協力

①委員活動を応援してくれる住民の有無

全国結果の分析(概況)	和歌山県の状況
<p>民生委員・児童委員、主任児童委員として活動を行ううえで、住民の協力が得られているかを把握するため「あなたのまわりに活動を応援してくれる住民がいるか」を尋ねたところ、約7割の委員が「いる」との回答であった。</p> <p>しかし、「いない」との回答が約2割、無回答が約1割あるということは、2割～3割の委員は応援してくれる住民がおらず、地域での活動において孤立化しやすい状況があることがうかがえる。</p>	<p>概況は、全国結果とほぼ同じ状況である。</p> <p>但し、和歌山県内では、全国比より2.1ポイント、「いない」と答えた委員が多い。</p> <p>このことから、住民の協力が得られる委員活動とは何かを改めて考える必要がある。</p>

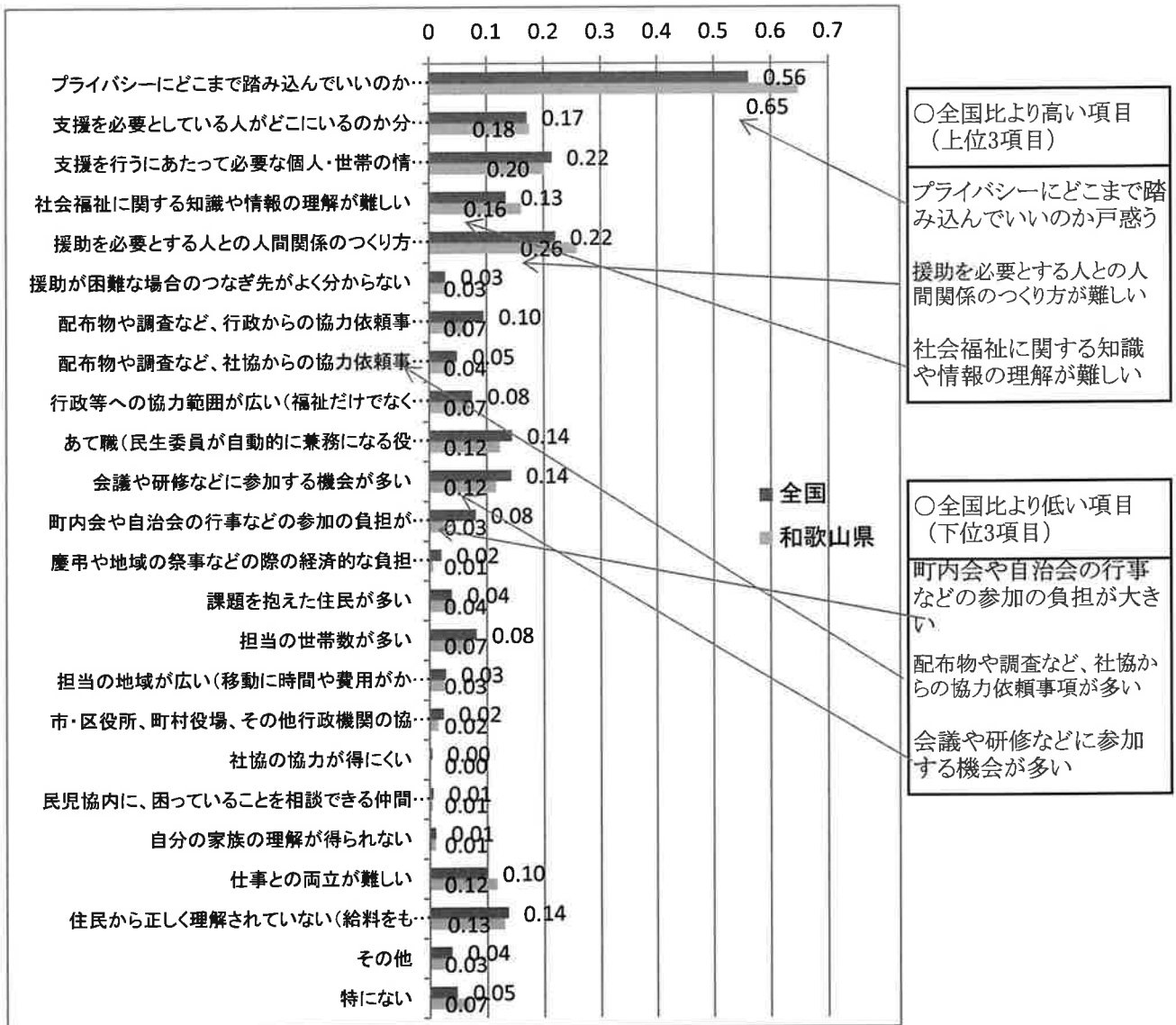


全国比より2.1ポイント高い。

(3) 民生委員・児童委員の意識

①委員における悩みや苦勞

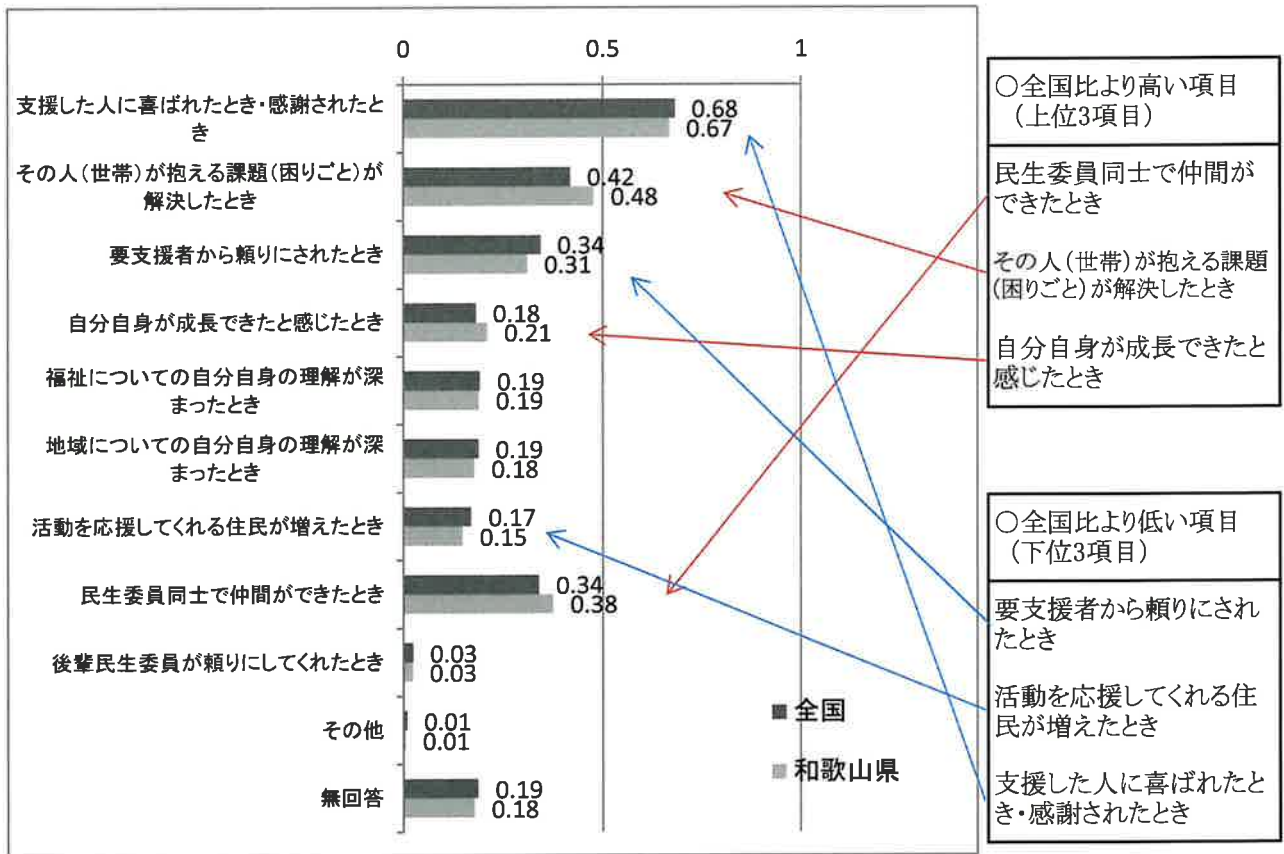
全国結果の分析(概況)	和歌山県の状況
<p>・ 委員活動における悩みや苦勞について選択肢を用意し、上位3項目を選択してもらった。全委員(区域担当委員、主任児童委員を問わず)が第1位(もっとも悩んでいること、苦勞していること)に挙げた項目の最多は、住民(世帯)との関係において「プライバシーにどこまで踏み込んでいいのか戸惑う」であった。</p> <p>・ 近年、委員在任期間が短縮化し、約6割の委員が在任2期以内という状況にあるなか、住民(世帯)との関わり方に悩む委員が多いことを示す結果となった。</p>	<p>概況は、全国結果とほぼ同じ状況である。但し、和歌山県内では、全国比より高い項目をみると、個別に支援を行ううえで、必要なサービスや支援に繋ぐまでの関係づくりに苦勞されていることが伺える。</p> <p>委員活動における個別支援をスムーズに行えるよう、支援に活用できる社会福祉に関する知識や情報提供を行うことで、支援の一助になると考える。</p>



(3) 民生委員・児童委員の意識

②委員活動のやりがいや喜び—全委員※上位3項目回答

全国結果の分析(概況)	和歌山県の状況
<p>・ 委員活動を続けるうえで大切なこととして、活動の「やりがい」や「喜び」、「達成感」があるが、こうしたことをどの様な時に感じるかについて、提示した選択肢から3項目を選択してもらった。結果、各委員の回答としては、約半数の委員が「支援した人に喜ばれた時、感謝されたとき」を挙げた。</p>	<p>概況は、全国結果とほぼ同じ状況である。 但し、和歌山県内では、全国比より高い項目をみると、「民生委員同士で仲間ができたとき」、「その人(世帯)が抱える課題(困りごと)が解決したとき」、「自分自身が成長できたと感じたとき」と回答した委員が多いことから、委員活動を進めると同時に、その状況等を委員同士で共有することが、大きな喜びであり、支えにつながると考えられる。</p>

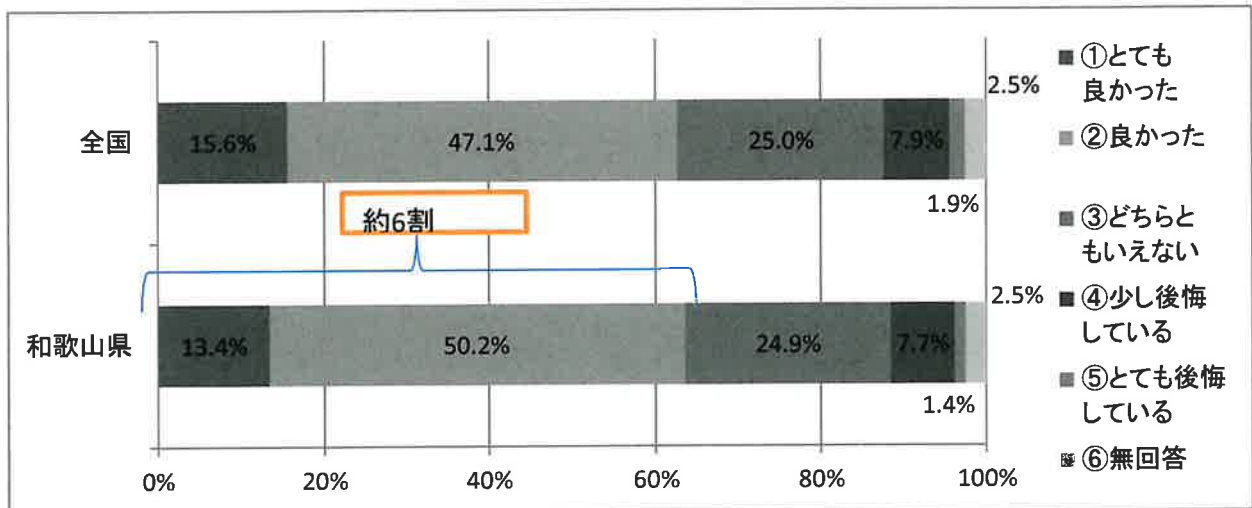


(3) 民生委員・児童委員の意識

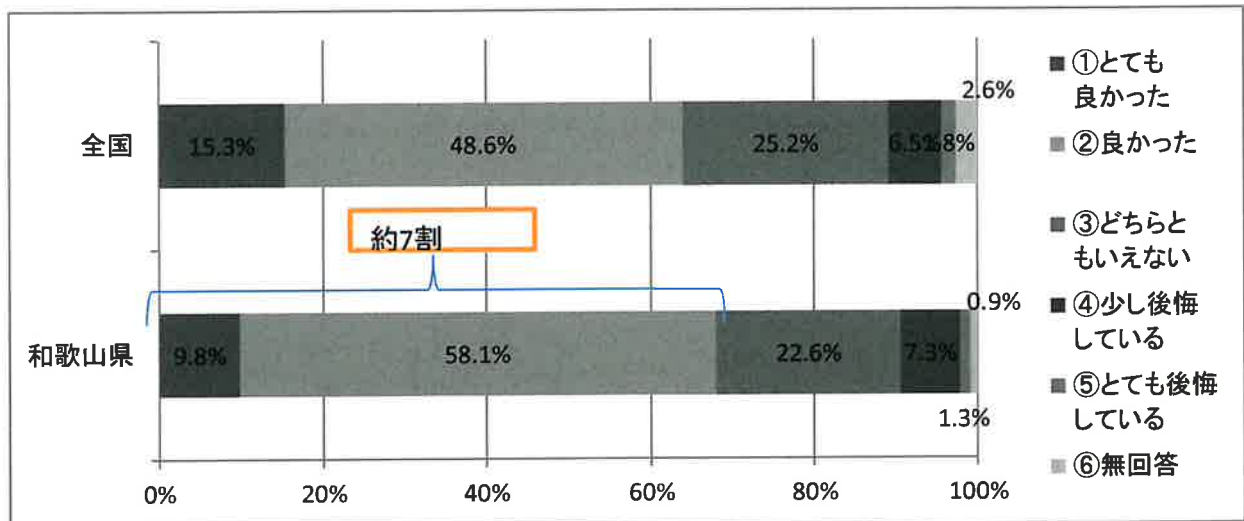
③民生委員・児童委員となったことを「どう感じているか」

全国結果の分析(概況)	和歌山県の状況
<ul style="list-style-type: none"> 日々活動を行うなかで、民生委員・児童委員、主任児童委員になったことをどう感じているか尋ねたところ、区域担当委員、主任児童委員のいずれにおいても、「とても良かった」「良かった」の合計が約6割であった。 一方、「少し後悔している」、「とても後悔している」の合計は、区域担当委員、主任児童委員でそれぞれ8～9%台であり、1割近い結果となった。 	<p>概況は、全国結果とほぼ同じ状況である。但し、和歌山県内では、主任児童委員の方が、「とても良かった」「良かった」の合計ポイントが高い。今回の調査項目には無かったが、後悔する原因となった内容を分析することは、なり手確保の方策検討につながると思われる。</p>

①区域担当委員



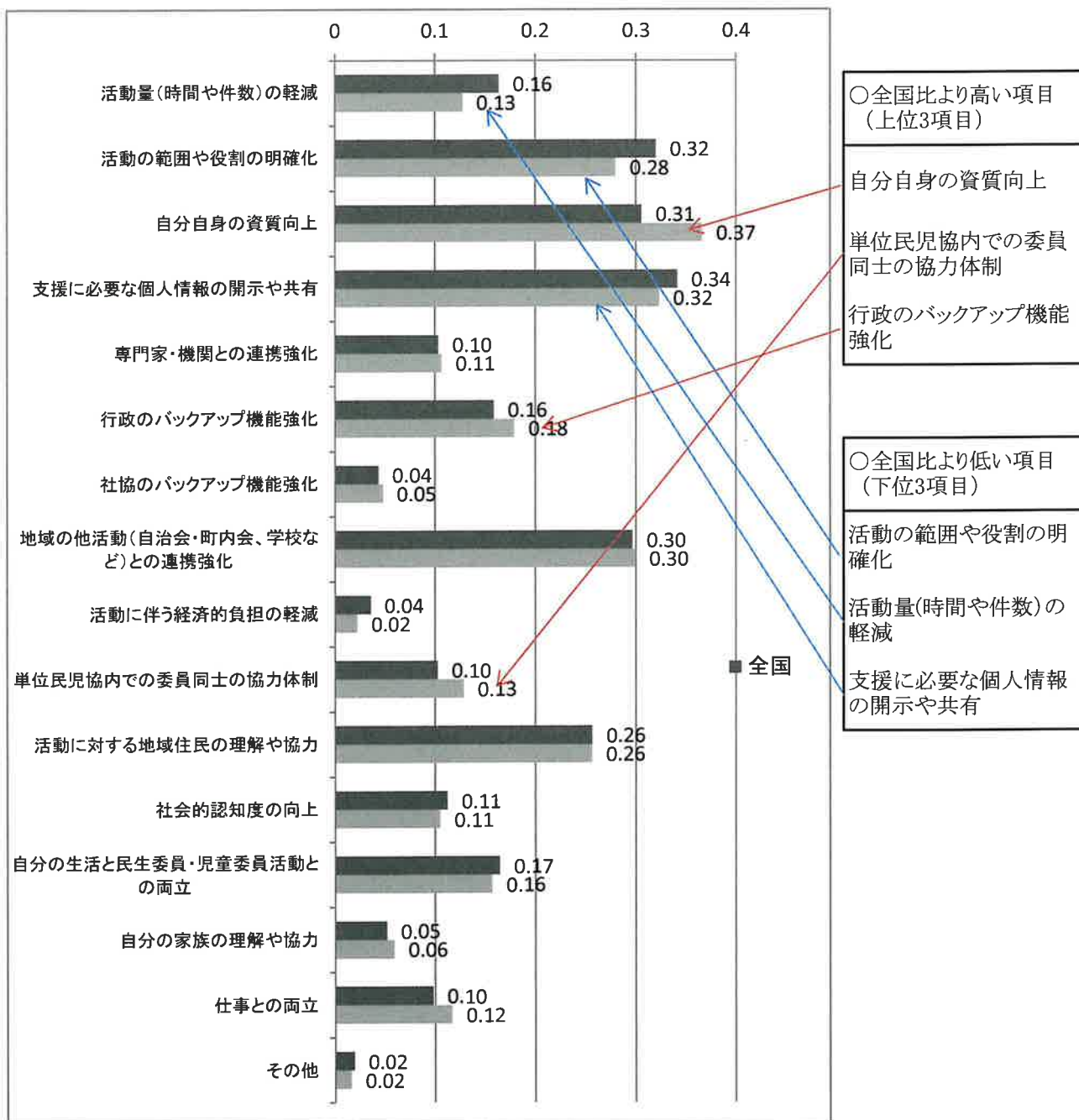
②主任児童委員



(3) 民生委員・児童委員の意識

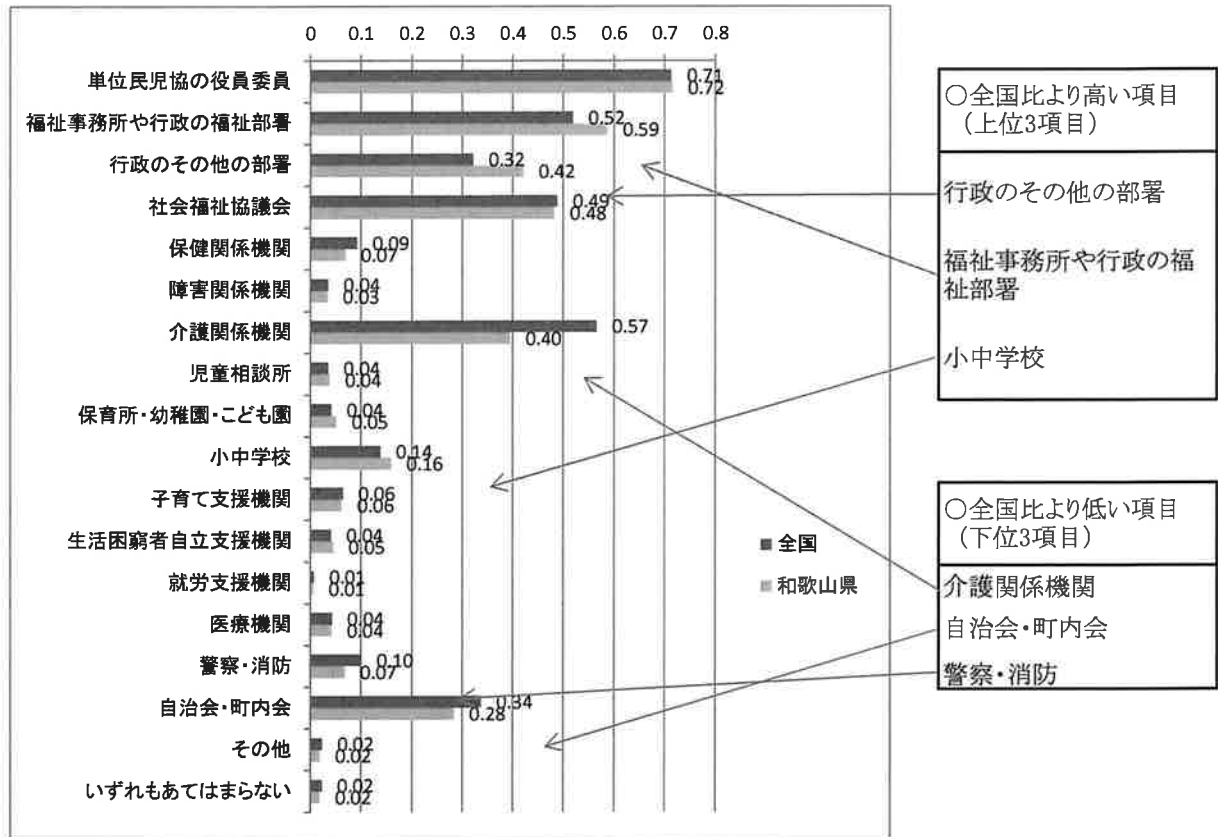
④円滑な委員活動のために希望すること 全委員※上位3項目回答集計

全国結果の分析(概況)	和歌山県の状況
<p>・「今後、委員活動を続けていくために希望すること」を選択肢から3項目選んでもらったところ、各委員から第1位として挙げられた項目の最多は「活動の範囲や役割の明確化」であった。近年、民生委員・児童委員への期待の拡大に伴い、活動の負担も高まっている状況を反映した結果と言える。</p> <p>・一方で第2位となったのが「自分自身の資質向上」であった。多様化する住民の生活課題、福祉課題に応えようとするなか、自らの力量を高めたいと考える委員が多いことを示す数字で、研修の充実などが期待されることである。</p>	<p>概況は、全国結果とほぼ同じ状況である。</p> <p>但し、和歌山県内では、第1位となったのが、「自分自身の資質向上」であった(対全国比で6.0ポイント)。第2位が「単位民児協内での委員同士の協力体制」第3位が「行政のバックアップ機能強化」となった。全国で第1位となった「活動の範囲や役割の明確化」については、和歌山県内においては、15位(-4.0ポイント)であった。</p> <p>このことから、活動の負担はあるが、自らの力量を高めつつ、委員同士の連携、行政の協力を得る体制を整えることが、円滑な活動につながると前向きにとらえられていることが伺える。</p>



(4) 日常的に相談している相手

全国結果の分析(概況)	和歌山県の状況
<p>・ 日々の委員活動において、何かあった時に相談している相手や期間を尋ねたところ、全委員では「単位民協の役員・先輩委員」と挙げた委員が71.4%と最多であり、次いで、「介護関係機関(地域包括支援センター等)」、「福祉事務所や行政の福祉部署」、「社会福祉協議会」と続いた。</p>	<p>概況は、全国結果とほぼ同じ状況である。但し、和歌山県内において、対全国比より高い項目をみると、行政を相談相手としている委員が多いことがわかった。また、小中学校も第3位となっていることが特徴的である。住民向け活動実施状況(調査3)において、小中学生の見守りや訪問活動が活発であることから、活動と連携の強度は比例関係にあると言える。一方、全国比よりかなり低い項目に、介護関係機関が挙げられる(対全国比-17.2ポイント)が特徴的である。その理由として、他の相談機関(例えば、地域包括支援センター等)で円滑に相談支援できている結果と考えられる。</p>



(5) 単位民児協による活動

③単位民児協による住民向け活動の実施状況

全国結果の分析(概況)	和歌山県の状況
<p>・実施方法(主催、共催、協力)を問わず、民児協としてその活動を行っているか(=民生委員・児童委員がその事業に携わっているか)をまとめたところ、実施率が高かったのは、以下の5種類の活動で、いずれも民児協全体の7割を超えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 高齢者への訪問活動(友愛訪問、施設訪問等) * 学校などへの訪問活動 * 災害時要援護者台帳の作成や防災マップづくりなどの災害に備えた活動 * 高齢者向けサロンなど(ふれあい・いきいきサロン等) * 通学路の見守りなどの安全確保のための活動 <p>・一方、特に実施率が低かったのは、「障がい者・児を対象としたサロン」であった。また、「低所得世帯やひとり親家庭への支援」も実施率は低かったが、具体的に示した活動内容は、子ども食堂や学習支援といった新たな取組みであり、逆に3割程度の民児協で実施・協力していると評価することもできる。</p>	<p>概況は、全国結果とほぼ同じ状況である。</p> <p>但し、和歌山県内において、上位項目、「通学路の見守り等の安全確保のための活動」、「学校などへの訪問活動」、「子育て家庭等への訪問活動」は、9割以上の単位民児協で実施されていることが特徴的である。このことから、小中学校との連携による活動が活発であることがわかる。</p> <p>また、下位の項目については高齢者向けの活動が挙げたが、活動が不足しているのか、他機関によって(ボランティアグループ、社協、行政等)実施されているのか、地域による分析が必要である。また、「低所得世帯やひとり親世帯への支援」の取組が弱い、ニーズの有無等、地域によるヒアリングが必要である。</p>

活動内容	上段: 全国の状況				下段: 和歌山県内の状況			
	全国	和歌山県	差	ポイント差(本県-全国)	全国	和歌山県	差	ポイント差(本県-全国)
高齢者向けサロンなど	主催・共催により実施	86.4%	70.0%	-16.4	86.4%	70.0%	-16.4	-16.4
	実施・協力していない	9.3%	27.3%	17.9	9.3%	27.3%	17.9	17.9
	無回答	4.2%	2.7%	-1.5	4.2%	2.7%	-1.5	-1.5
子ども・子育て家庭を対象としたサロンなど	主催・共催により実施	59.7%	52.7%	-7.0	59.7%	52.7%	-7.0	-7.0
	実施・協力していない	32.3%	40.0%	7.7	32.3%	40.0%	7.7	7.7
	無回答	7.9%	7.3%	-0.7	7.9%	7.3%	-0.7	-0.7
障がい者・児を対象としたサロンなど	主催・共催により実施	19.9%	14.5%	-5.4	19.9%	14.5%	-5.4	-5.4
	実施・協力していない	68.9%	76.4%	7.5	68.9%	76.4%	7.5	7.5
	無回答	11.2%	9.1%	-2.1	11.2%	9.1%	-2.1	-2.1
在宅福祉サービス関連支援	主催・共催により実施	40.2%	25.5%	-14.8	40.2%	25.5%	-14.8	-14.8
	実施・協力していない	49.5%	67.3%	17.8	49.5%	67.3%	17.8	17.8
	無回答	10.3%	7.3%	-3.1	10.3%	7.3%	-3.1	-3.1
高齢者への訪問活動	主催・共催により実施	92.6%	91.8%	-0.8	92.6%	91.8%	-0.8	-0.8
	実施・協力していない	3.9%	5.5%	1.6	3.9%	5.5%	1.6	1.6
	無回答	3.5%	2.7%	-0.8	3.5%	2.7%	-0.8	-0.8
障がい者への訪問活動	主催・共催により実施	57.1%	58.2%	1.1	57.1%	58.2%	1.1	1.1
	実施・協力していない	33.8%	32.7%	-1.1	33.8%	32.7%	-1.1	-1.1
	無回答	9.1%	9.1%	0.0	9.1%	9.1%	0.0	0.0
子育て家庭などへの訪問活動	主催・共催により実施	61.9%	68.2%	6.2	61.9%	68.2%	6.2	6.2
	実施・協力していない	29.4%	29.1%	-0.3	29.4%	29.1%	-0.3	-0.3
	無回答	8.7%	2.7%	-5.9	8.7%	2.7%	-5.9	-5.9
学校などへの訪問活動	主催・共催により実施	88.1%	95.5%	7.3	88.1%	95.5%	7.3	7.3
	実施・協力していない	7.4%	3.6%	-3.8	7.4%	3.6%	-3.8	-3.8
	無回答	4.4%	0.9%	-3.5	4.4%	0.9%	-3.5	-3.5
低所得世帯やひとり親世帯への支援	主催・共催により実施	32.8%	25.5%	-7.4	32.8%	25.5%	-7.4	-7.4
	実施・協力していない	56.8%	66.4%	9.6	56.8%	66.4%	9.6	9.6
	無回答	10.4%	8.2%	-2.2	10.4%	8.2%	-2.2	-2.2
生活相談、心配ごと相談窓口の開設	主催・共催により実施	50.2%	64.5%	14.3	50.2%	64.5%	14.3	14.3
	実施・協力していない	40.9%	30.0%	-10.9	40.9%	30.0%	-10.9	-10.9
	無回答	8.9%	5.5%	-3.4	8.9%	5.5%	-3.4	-3.4
通学路の見守りなどの安全確保のための活動	主催・共催により実施	81.0%	96.4%	15.4	81.0%	96.4%	15.4	15.4
	実施・協力していない	14.0%	2.7%	-11.3	14.0%	2.7%	-11.3	-11.3
	無回答	5.0%	0.9%	-4.1	5.0%	0.9%	-4.1	-4.1
遊び場などを含む地域の環境改善整備・危険箇所等の点検	主催・共催により実施	52.5%	46.4%	-6.1	52.5%	46.4%	-6.1	-6.1
	実施・協力していない	38.0%	41.8%	3.8	38.0%	41.8%	3.8	3.8
	無回答	9.5%	11.8%	2.3	9.5%	11.8%	2.3	2.3
災害時要援護者台帳の作成や防災マップづくりなどの災害に備えた活動	主催・共催により実施	87.0%	87.3%	0.2	87.0%	87.3%	0.2	0.2
	実施・協力していない	8.0%	9.1%	1.1	8.0%	9.1%	1.1	1.1
	無回答	4.9%	3.6%	-1.3	4.9%	3.6%	-1.3	-1.3

○全国比より高い項目
(上位3項目)

通学路の見守り等の安全確保のための活動

学校などへの訪問活動

子育て家庭等への訪問活動

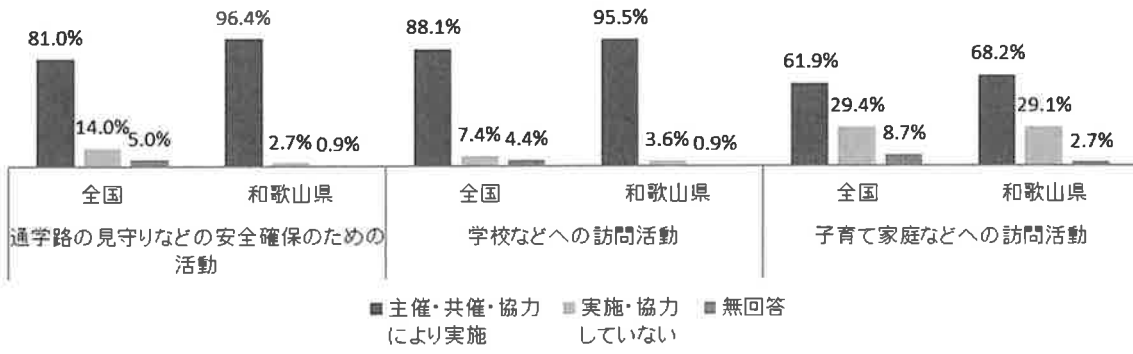
○全国比より低い項目
(上位3項目)

高齢者向けサロンなど

在宅福祉サービス関連支援

低所得世帯やひとり親世帯への支援

○抜粋: 全国比より高い項目(上位3項目)



(6) 関係機関との連携状況

①連携(協働・協力)に伴う負担感

全国結果の分析(概況)	和歌山県の状況
<p>・近年、民生委員・児童委員に寄せられる期待の高まりのなか、関係機関から民児協に寄せられる依頼事項も拡大傾向にあり、それが負担の拡大にもつながっているとされる。そこで、関係機関との連携・協働に伴う負担感を聞いた。「まったく負担ではない」との回答が最多であったのは「地域包括支援センター」であった。</p> <p>・これまで市区町村行政や社協からの依頼事項が多く、それが負担となっているとの指摘もみられたが、今回の結果では、「まったく負担ではない」、「あまり負担ではない」の合計が、いずれも8割を超えていた。</p> <p>・一方、連携が負担である(「やや負担」、「非常に負担」の合計)相手先として最多であったのは「共同募金会(支所を含む)」であった。</p>	<p>概況は、全国結果とほぼ同じ状況である。</p> <p>但し、和歌山県内において、全国比よりポイントが高い項目のうち、「小・中学校」「保育所/幼稚園」については、単位民児協による住民向け活動の実施状況(実施状況を問わず)(前述(5)-③)で、全国比よりポイントの高かった「通学路の見守り等の安全確保のための活動」、「学校などへの訪問活動」と連動していることが分かる。</p> <p>このことから、活動がより多くされるほど、連携の負担感は低くなると考えられる。</p>

上段: 全国の状況						
下段: 和歌山県内の状況						
ポイント差(本県-全国)						
連携先	まったく負担ではない	あまり負担ではない	やや負担である	非常に負担である	無回答	
福祉事務所/役所の福祉担当課	23.3%	49.7%	12.7%	0.8%	13.6%	100.0%
	30.0%	49.1%	11.8%	0.0%	9.1%	100.0%
	6.7	-0.6	-0.8	-0.8	-4.5	-
市町村社協(支所を含む)	24.0%	47.6%	13.7%	1.3%	13.4%	100.0%
	26.4%	49.1%	12.7%	1.8%	10.0%	100.0%
	2.4	1.5	-1.0	0.5	-3.4	-
共同募金会(支会・分会を含む)	15.0%	35.8%	21.9%	5.8%	21.5%	100.0%
	20.0%	34.5%	21.8%	4.5%	19.1%	100.0%
	5.0	-1.3	0.1	-1.3	-2.4	-
保健所・保健センター	18.9%	44.6%	9.0%	1.6%	25.9%	100.0%
	20.9%	45.5%	10.9%	0.0%	22.7%	100.0%
	2.0	0.8	1.9	-1.6	-3.2	-
地域包括支援センター	38.5%	42.1%	5.7%	0.4%	13.4%	100.0%
	43.6%	47.3%	1.8%	0.0%	7.3%	100.0%
	5.2	5.2	-3.9	-0.4	-6.1	-
児童相談所	17.9%	38.3%	11.1%	3.1%	29.6%	100.0%
	25.5%	32.7%	14.5%	1.8%	25.5%	100.0%
	7.5	-5.6	3.4	-1.2	-4.1	-
保育所/幼稚園	21.5%	46.4%	7.2%	1.4%	23.6%	100.0%
	31.8%	49.1%	4.5%	0.0%	14.5%	100.0%
	10.3	2.7	-2.6	-1.4	-9.1	-
地域子育て支援センター	19.0%	41.9%	8.3%	1.9%	28.9%	100.0%
	28.2%	40.9%	5.5%	1.8%	23.6%	100.0%
	9.2	-1.0	-2.8	-0.1	-5.3	-
小・中学校	25.7%	52.1%	6.3%	0.5%	15.3%	100.0%
	41.8%	47.3%	2.7%	0.0%	8.2%	100.0%
	16.1	-4.9	-3.6	-0.5	-7.1	-
警察・消防	21.0%	47.5%	8.1%	1.5%	21.9%	100.0%
	31.8%	40.9%	9.1%	1.8%	16.4%	100.0%
	10.8	-6.6	1.0	0.3	-5.5	-
自治会・町内会	24.1%	46.7%	10.9%	1.4%	16.9%	100.0%
	30.9%	50.0%	6.4%	0.9%	11.8%	100.0%
	6.8	3.3	-4.5	-0.5	-5.1	-

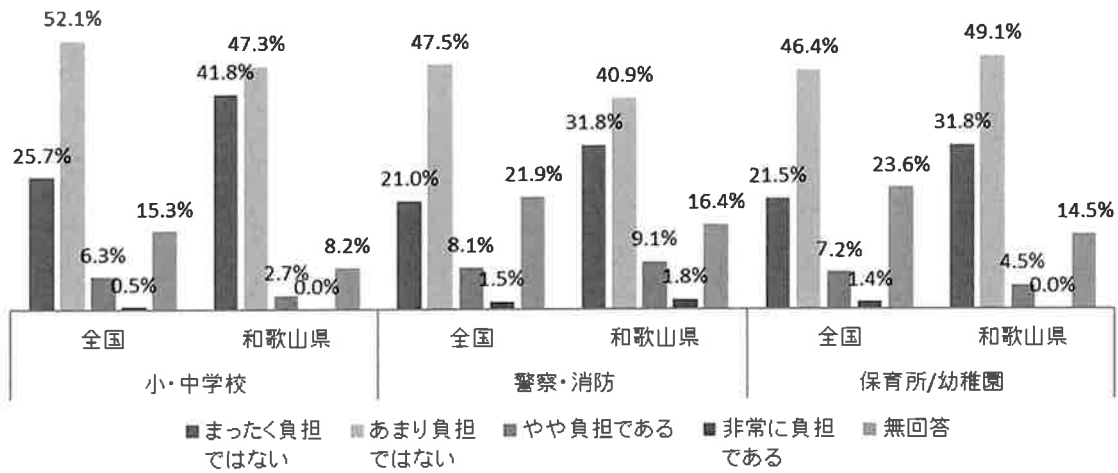
○全国比より高い項目 (上位3項目)

小・中学校
保育所/幼稚園
警察・消防

○全国比より低い項目 (下位3項目)

保健所・保健センター
市町村社協(支所を含む)
共同募金会(支会・分会を含む)

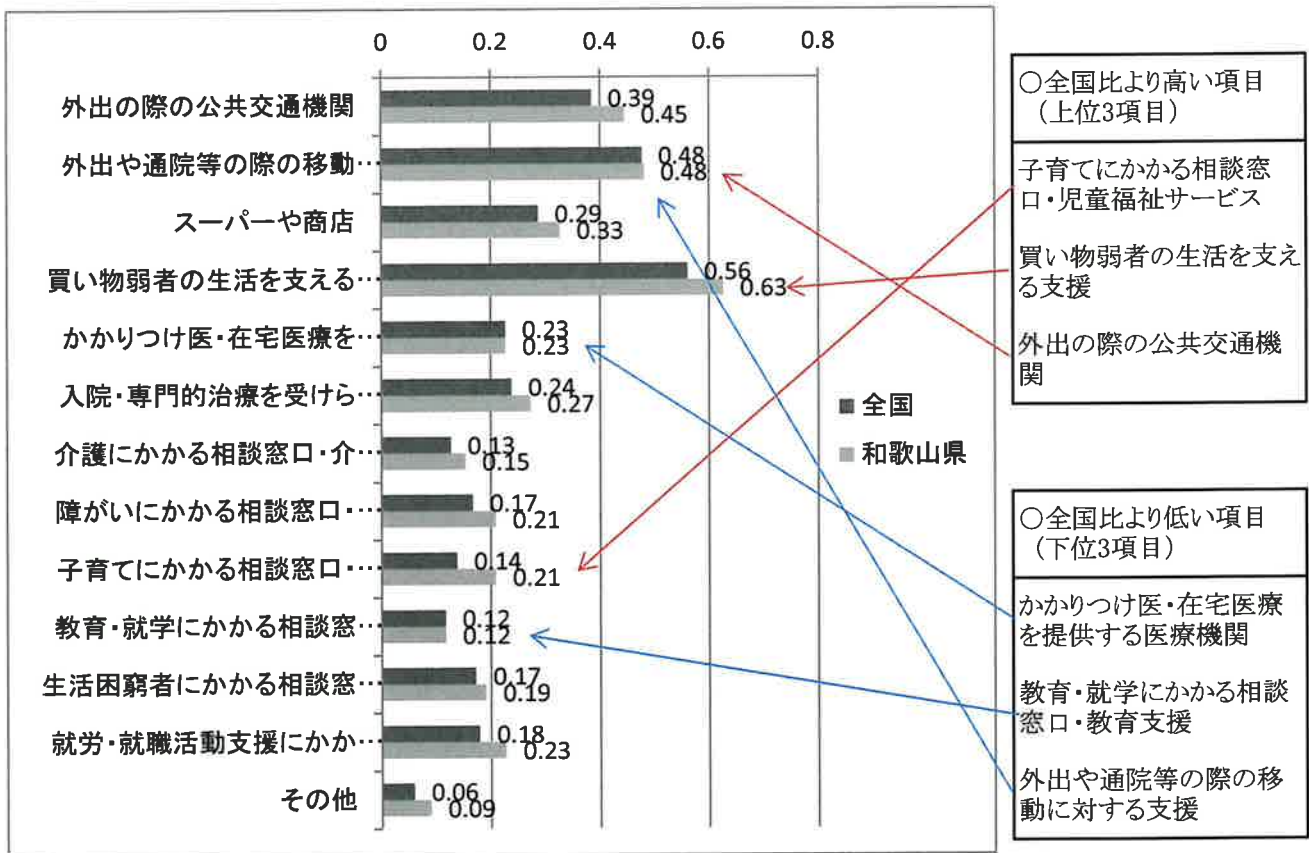
○ 抜粋: 全国比より高い項目 (上位3項目)



(7) 地域に不足していると感じるサービスや社会資源

②地域に不足していると感じるサービスや社会資源

全国結果の分析(概況)	和歌山県の状況
<p>・最多は「買い物弱者の生活を支える支援」で過半数を超える民児協が指摘した。また、第2位は、「外出や通院等の際の移動に対する支援」であった。これらの結果は、各地でみられる小売店やスーパーの閉店、またバス路線の廃止や減便など、生活基盤の脆弱化を反映したものである。</p> <p>・さらに、こうした傾向は政令市や東京特別区よりも一般市町村で強く、町村においては「公共交通機関」とともに「医療機関」の不足も多く指摘された。</p>	<p>概況は、全国結果とほぼ同じ状況である。但し、和歌山県内において、地域に不足していると感じるサービスや社会資源の上位3項目のうち2項目については、いずれも“移動”に対するニーズが大きいことがわかる。これらのニーズに対して、地域の力を高めるための新たな活動についての検討が必要である。</p> <p>また、対全国比でみると子育てにかかる相談窓口・児童福祉サービスの不足を感じるポイントも高くなっていることから、身近な地域での相談窓口がどこにあるのか知られていない状況なのか、充足していないのか資源の確認が必要である。</p>



課題	全国	和歌山県	ポイント差	本県-全国	ポイント差
身体的な病気・けが	34.1%	34.9%	0.8	-0.8	16
身体障がい（狭い含む）	15.7%	17.0%	1.3%	1.3%	7
知的・身体的障がい（狭い含む） （知的障がい、発達障がい、精神障がい含む）	17.7%	18.4%	0.7%	-0.6	16
外国籍住民	1.9%	1.3%	-0.6%	0.7	16
出刑所余者等（刑務所等からの出所者）	1.6%	3.8%	2.2%	2.2	1
むろ路上生活者（行旅人含む）	0.6%	0.7%	0.1%	-0.5	8
被災者	0.6%	0.4%	-0.2%	15	1
自殺企図	2.1%	1.8%	-0.3%	-0.2	12
依存症（アルコール・薬物等）	6.8%	6.8%	0.0%	10	1
調精神（うつ病等） 精神面の不調	20.9%	23.2%	2.3%	2.2	1
児童虐待	3.4%	4.9%	1.5%	1.6	3
家庭での養育が困難	4.4%	6.2%	1.8%	1.8	2
不登校	6.5%	7.1%	0.6%	0.7	7
非行	0.9%	0.9%	0.0%	10	9
家庭内暴力	4.6%	4.7%	0.1%	0.1	9
家族が不仲	13.2%	12.8%	-0.4%	-0.4	14
ひとり親世帯	13.1%	13.1%	0.0%	0.0	10
高齢者虐待	4.0%	2.4%	-1.6%	-1.6	20
外出が困難	21.4%	19.0%	-2.4%	-2.4	21
認知症	27.4%	24.3%	-3.1%	-3.1	23
在宅介護が困難	9.8%	9.5%	-0.3%	-0.3	13
必要な介護や生活支援を受けていない	18.9%	17.3%	-1.6%	-1.6	20
失業・リストラ	5.7%	5.8%	0.2%	0.2	8
就労不安定	10.2%	11.5%	1.3%	1.3	4
働く意志がない （教育を受けようとする意志がない）	8.8%	7.3%	-1.5%	-1.5	19
借金の返済が困難	7.1%	5.8%	-1.2%	-1.2	18
親の年金頼みで子が無職	10.1%	10.0%	-0.1%	-0.1	11
等住まい不安定（立ち退き）	4.1%	4.9%	0.8%	0.8	6
ゴミ屋敷	16.4%	13.5%	-2.9%	-2.9	22
近隣住民とのトラブル	21.9%	18.8%	-3.1%	-3.1	23
ひきこもり	16.6%	15.7%	-0.9%	-0.9	17
その他	11.6%	11.1%	-0.4%	-0.4	14

○対全国より高い項目（上位3項目）
 精神的疾患・精神面の不調（うつ等）
 刑余者（刑務所等からの出所者）
 家庭での養育が困難
 児童虐待

○対全国より低い項目（下位3項目）
 認知症
 近隣住民とのトラブル
 ゴミ屋敷
 外出が困難

◎全国結果の概況について（上位3項目）
 身体的な病気・けが
 認知症
 近隣住民とのトラブル

